

国際交流センター NEWSLETTER

Sep. 2014 Vol.36

短期交換留学生の声

**全ての体験談は、文章を抜粋して掲載しています。国際交流センターHPで完全版をご覧ください。

私が身につけた3つのこと 「多文化への耐性・自分の人生観の確立・強い精神力」

西田莉紗 文学部 言語文化学科 4 回生



ノースカロライナ州立大学グリーンズボロ校(以下 UNCG) UNCG がアメリカの中でも多民族居住地域のグリーンズボロに位置しています。また、特に UNCG は国内有数の国際交流活動を行っている大学で、その提携校は 100 校を超え、世界各国の大学から留学生が学びに来ます。その為、他の文化に対して非常にオープンな雰囲気の中でアメリカ文化だけでなく様々な文化、価値観を学ぶことができます。しかし、言い換えてみれば、この雰囲気の中で過ごすという事は「他の文化に対してオープンであり、その価値観を尊重する」事が必要だという事です(私はこのことに全く気が付いていませんでした…)。実際に行動に表すのは大変難しく、何度も辛い思いをしましたが、

粘り強く行動することで自分と違う、合わないこと、価値観に対しても動じず、尊重できる『多文化への耐性』を身につけることができました。この経験は帰国した今でもあらゆる場面において非常に役に立っています。

私はこの留学を通じて『自分の』人生観(もちろん一部ですが…)を確立できたと感じています。親元、慣れ親しんだ日本、その文化から離れ、遠く離れたアメリカで価値観が入り乱れ、各々がしたいことをし、言いたいことを主張しあう環境の中にひとり身を置くことで本当の意味で「『自分は』何がしたいのか」「『自分の』価値観とは何か」「『自分は』将来どうなっていたいのか」をしっかりと考え、知ることができました。この経験は今後、就職活動だけでなく人生設計においてもかけがえのないもので、とても貴重なものだと感じています。

「集中するときは集中し、遊ぶときは遊ぶ」というメリハリのある生活を送るために自分をコントロールする精神力を養うことができましたと感じています。また、集中してすべてのことに取り組んだ結果、勉強面では2学期目に履修していたクラスの多くで80点以上の成績を修めることができました。テニスでは、米東海岸州立大学選手権で団体戦2位に入賞することができました。このような成果を修めるまでに様々な壁に直面し、喧嘩をする事もありましたが、その経験を通じて強い精神力を養うことができましたと感じています。

Inside This Issue



短期交換留学生の声

アメリカ・ノースカロライナ州立大学
グリーンズボロ校
台湾・東海大学
ドイツ・トリアー大学
イギリス・レスター大学



Voice from former exchange students.



EUIJ 関西夏季合宿に参加して



センター来訪者・活動



留学前の想像をはるかに超える様々な経験、そして学びを得ることができた



越智由美子 文学部 言語文化学科 4 回生



私は留学期間中、日本語を学ぶ現地学生のお手伝いをさせていただきました。日本語を英語で教えることは決して簡単なことではありませんでしたが、一生懸命に学ぶ生徒の姿にはいつも心を打たれ、教えている私までとても嬉しい気持ちになりました。また、言語の指導だけでなく、映画会を開いたり、日本食を振る舞

ったりと、日本文化を紹介する機会もあったので、生徒との距離を縮めていくことができました。生徒の中には、日本へ留学に行きたい、将来日本で働きたいと言ってくれる方もいて、私はそのようなきっかけを作ることができて本当に良かったと感じました。このような、日本語を外国語として学ぶ学生との交流を通して、私は改めて外国語学習の楽しさ、難しさ、そして大切さを実感し、英語学習者として、また将来は英語指導者としても、この経験を生かしていきたいと強く思いました。

このような楽しい経験もありましたが、留学中には苦勞することもたくさんありました。やはり最も苦勞したのは言語の壁を乗り越えることで、自分の英語力の低さには常に悩まされていました。日本人は英語ができないとよく言われていますが、まさにその通りで、日本人は私も含めて特にスピーキングが弱く、言いたいことが伝わらないことが何度もありました。だからこそ私は自らが英語教師になって、自分の経験も踏まえながら英語の指導にあたり、英語のできる日本人を増やしていきたいと思いました。

言語学専攻の私にとって、大学や語学学校の授業、台湾人との交流、生活のすべてが観察対象となり、学習の場となりました



今中 麻祐子 文学部 言語文化学科 4 回生

東海大学の中国語語学センターでは、中国語能力の向上を目標とし、新聞や台湾の小説を主な教材として学びました。新聞や小説を読むことで、台湾の現在の社会状況や文化について知ることができ、現在の社会問題などに対してクラスメートと討論することで一つの問題に対して様々な見方をすることができました。クラスがアメリカ、韓国、インドネシア、ベトナムなど言語も文化背景も異なる学生で構成されていたので、他の国の社会状況や言語の表現方法の違いを知ることができました。時には、新聞記事を自分で選び、先生役を担当するという授業形式があり、1コマ分の授業を準備し、授業を行うなど、様々な授業形式を楽しめました。私は人前で発言することにためらいを感じるが多かったのですが、クラスで自発的な発言が求められたこと、またスピーチコンテストへの参加などを通して積極的に自分の意見を発する態度を身につけていくことができました。また、大学の授業を通して、中国語を学問的視点から考えることができまし

た。すべて中国語で進められる台湾人学生と同じ授業を受けることは私にとって挑戦となりましたが、先生が日本語にも関心を示してくださり、私に授業中に、またレポート課題として日本語と中国語を比較して考えるよう促し、学生の前で発言する機会を多く与えてくださったことは私にとって良い経験となりました。



日本では台湾の中国語、また方言について考える機会が多くはないので、台湾で話されている言語について

知り考える良い機会となりました。

苦しみも悲しみも、喜びも共有できる友達を多く持てた



足立早紀 文学部 言語文化学科 3 回生

ドイツ・トリアー大学ではあまり授業を入れなかったので、その他を予習・復習にあてていました。また、トリアー大学には日本学という学科があり、日本人とドイツ人がタッグを組んで学ぶ『タンデム』と呼ばれる制度があります。私は授業よりもタンデムを積極的に行い、同じ授業の予習をして試行錯誤したり、お喋りをしたり、街へ出かけたり、友達（タンデムは私にとって本当に良い友達とまったく同義です）と過ごす中で学ぶことがとても有意義でした。内心、最初は日本学があることで甘えが出るのではないかと危惧していましたが、たしかな絆を得ることが出来、トリアー大学という最高の環境で学ぶことが出来て本当に良かったと思います。ドイツ語には、半年を過ぎる頃までは苦労もありました。他人が言っていることは理解できるのに、自分が喋るとなると口が追いつかず、会話だけが伸びない日々が続きました。葛藤し自信を喪失しましたが、友達と過ごす時間を増やすうち、日常会話であれば戸惑いなくこなせるようになりました。また、私が一番重点を置いていた日→独翻訳の授業では、



ある本の翻訳に携わる機会を得、言語の機械的変換にとどまらない奥深さを学び、とても幸運でした。窮地に陥ったときには、いつも周りの友達や先生の温かい言葉や支援に背中を押されて乗り越えることができました。この1年で得た最も誇れる成果は、苦しみも悲しみも、喜びも共有できる友達を多く持てたことだと思います。

将来に向けて、自分自身の道を切り開いていくための指針



吉川 璃菜 文学部 言語文化学科 4 回生

ドイツ・トリアー大学では、DaF（留学生向けのドイツ語の授業）や英語学の他、日本語学の授業にも参加させていただきました。授業では、お互いに意見交換し、またプレゼンテーションを行う機会がたくさんありました。最初は戸惑いもありましたが、徐々に慣れていき、四苦八苦しながらも、自らの学びを深め、いかにして分かりやすく伝えるかを模索したことは貴重な経験となりました。

トリアー大学には、日本語学科があり、日本語学科の学生さんには、トリアー到着直後から普段の生活面でのサポートもしていただき、大きな支えとなりました。タンデムパートナーとも仲良くなり、お互いの言語やまた、世界各国からの留学生や、現地の学生との交流も盛んで、彼らの勉強に対する積極的な姿勢には、おおいに学ぶべきものがありました。自分の意見をしっかりと発言しつつ、相手の意見も尊重する考え方は、お互いの国を知る上で大変意義のあるものだと思います。それぞれの文化、価値観などの違いなどについて議論することも多く、相互理解を深めることができたのではないかと考えます。

文化をより深く学ぶことができました。また、日本人留学生との交流もかけがえのない大切なものとなりました。



日本について改めて考えることも多く、自分たちが意識しなかったような部分にも気づくことができ、新鮮な気持ちになりました。私にとってこの1年間の留

学生生活は、苦勞も含め大変学びのあるものでした。将来に向けて、自分自身の道を切り開いていくための指針になることと思います。

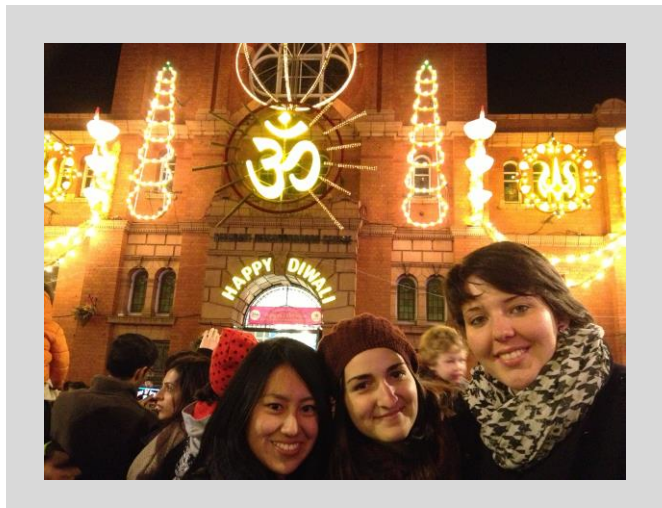
知りたいことは自分で探し、読んで、学ぶ



中尾 知美 理学部 生物科学科 3回生

レスターはイギリスの中央部に位置していて大きな街ではないですが、自然がいっぱいで学生にはとても住みやすい環境にあります。レスター大学にはイギリス人生徒に加え、多くの留学生が世界中から来ています。留学生のためのイベントや個人のサポートなどは充実していて、自然と友達もでき、すぐに馴染んでいくことができます。

毎日見るもののすべてが刺激になる中で、授業など勉強面での日本との違いには圧倒されました。イギリスでの勉強は基本的に「自分から学べ」というものです。もちろん講義やセミナーでは先生が丁寧に教えてくれます。しかし出されるエッセーの課題や試験では講義内容以上のものが求められます。そのため大学の文献資料はとても充実しています。知りたいことは自分で探し、読んで、学ぶ。大学図書館も24時間開館しており、試験期間や課題提出の時期が近くなると深夜になっても多くの生徒が図書館に集まり勉強をします。いつも図書館で見かける図書館友達ができたり、クラスメイトとお互い助け合って勉強をしたりするうちに、勉強がすごく楽しくなりました。それと同時に、日本でこのように論文を自ら探して読むことが難しいのは、



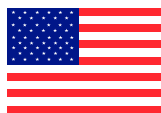
やはり世界に発信される論文等はほとんどが英語であり、この言語の壁によって他の国の学生にどんどん差をつけられてしまっていることがすごく悔しく感じました。初めは理系で留学する意味があるのか疑問でしたが、この時代で科学を勉強するには英語は必要不可欠なものであることに気づきました。将来、自分がレスターで得た生物科学と英語の知識を応用させ、世界の科学者に負けずに研究を進めて行きたいと思います。

Voice from former exchange students

Nara Women's University was at the heart of all my adventures

Claudia Jasso

The University of North Carolina at Greensboro



As I write this, I think back fondly on my time in Japan, that amazingly even though, it was only a few short weeks ago, it feels lifetimes away. Nara Women's University was at the heart of all my adventures. I remember the way I felt when I first arrived. I was excited and nervous but mostly I was scared. I was overwhelmed, thinking 'why did I do this? I can't even speak Japanese! At first glance, NWU is a little intimidating, in the face of such tranquility,

opposed to the hustle and bustle of my university, I was unsure of what to expect. There are a lot of things about NWU that make it seem like a second home. Things like the delicious rice balls served by the Dear Deer cafe from time to time, the beauty of the fountain by the courtyard, and the loud hum of the cicadas in the trees. This is the place where I met many of my friends, had many laughs and even shed quite a few tears. Whether in the halls of S building, or the International Student Center I could always find a reason to smile.

I think my inner-child practically melted into pure bliss because at that moment, I had done what I have been saying I was going to do for the past 11 years. What my twelve year old self had envisioned exactly, I can't remember,

because my adult self was finally grasping the enormity of the situation and the word 'help' became lodged in my throat.

Those three days after the initial arrival were, I think, a test of constitution. I remember feeling two emotions at all times, a mix between 'I can do this,' and 'what, in all seven levels of hell was I thinking?!'. I will never be able to thank our friend enough for taking us in.

We had a gathering and we made some acquaintances. it was nice, if not a bit overwhelming. and also our friend made cheesecake in a rice cooker. Yeah I know right, so creative! and so flippin' delicious! In any case, the weekend was long gone and the next day we were to be installed into the Japanese version of the International House. I'd never dreaded anything more. In the three days, we had made our friend's apartment a second home, a base in this new reality. In any case we were picked by school officials that fateful next morning and shown to our new installations.

Classes are completely different than what you could expect. I knew it wasn't going to be easy,

These experiences have definitely taught me to be more outgoing and adventurous.



Sirinda Hansanant

The University of Leicester

Japanese culture had always been a part of my surroundings as a child, as I grew up in Asia where anime and kawaii culture is quite prolific. When I moved to UK this changed as interest in Asian culture was still quite niche, but I did take up Japanese lessons at school as a hobby along with joining Japan club. My interest in Japan, however, didn't fully develop until quite recently after several years of learning about it. But develop it did, and I soon found myself wishing to spend an extended amount of time in Japan to explore the country and culture I had grown to love. I was so lucky that my university course offered a year in Japan as part of an exchange programme, and of course I applied!

Arriving in Japan I felt a mix of excitement and apprehension. There were so many things to do such as visiting the city hall and opening our bank and phone accounts. Luckily we were each assigned a tutor to help us through the process. The first week was rather difficult as there was no wifi in the dorm and only one of the two computers in the computer room

I just didn't think there were going to be times more than not, where I felt so disconnected. Take it from me, any future exchange students, you will not be prepared for the change. You will be put in situations where you really have to push yourself to not become withdrawn, you won't learn that way. Accept it as it comes, don't even bother crying, just go with it. That's all you can do.

I don't think I will ever be able to put into words how thankful I am for the opportunity that I had coming to this school. You treated me like family and taught me so much. I can proudly say that I was a student at your university, and I hope that one day I will be able to reciprocate the favor should any student venture to my university. There are so many people who helped me. You know who you are, and I want to thank you from the bottom of my heart. The faculty, staff and students are among the best of the best. You will find your home in Nara.



would connect to the internet, I had to go use the free wifi at a nearby cafe to contact home. One strange thing I never knew about before was the use of [hanko], the personal stamp used for official documents, but after picking my own kanji for my hanko I was set.

As a science student I was assigned one lab for each semester, with a senpai in the lab to supervise my experiments. Everyone was super friendly and made me feel so welcome, I quickly got over my homesickness. We even had a couple welcome parties, from the science department and in the dorm. I soon had many friends to spend my time with and to show me around cool places.

Osaka quickly became one of my most frequently visited places as it is so convenient and fun. I'm glad I ended up in Nara Women's University, I think I wouldn't have done any work if I stayed in a big city! Other places I visited included Kyoto, where I saw a lot of beautiful temples and went to enjoy the cherry blossoms, Mt. Wakayama, Kobe, where I got to try the much vaunted Kobe beef, Ishigaki, and of course a couple trips to Tokyo as once was not enough to see everything!

All in all this year in Japan has been a great experience in independent living (no parents to

cook and clean oh my god!), I got to do many things I've never done before such as climbing Mt. Fuji and learning the art of flower arranging, and also made friends from many other countries. It will be sad to say goodbye but I hope to see many of you again soon, either in Japan, UK or, in the case of other international students, the country you're from. Other things I will miss include Pon de Rings and Japanese McDonald's constantly changing menu haha. Thank you everyone for making my year here an amazing one!

EUIJ 関西夏季合宿参加者の声

EUIJとは、EUに関する教育・学術・広報推進のために2005年に設立された神戸大学、関西学院大学、大阪大学からなる大学コンソーシアムです。

青柳晴美 文学部 言語文化学科 3 回生

9月1日から3日までの3日間に渡る本合宿では、EUに対する興味を喚起し、理解を深めることが主要な目的とされています。最終日に予定されている、EUの抱える諸問題に関するディベートに向けて、私達学生は様々な先生方の講義を受け、また自分たちで資料を探し、知識を増やしました。

本合宿から学んだことは、2つあります。1つ目は、プレゼンテーションの方法です。最終日のディベートを良いものにするには、いかに簡潔且つ明瞭に自分達の意見を伝えるか、という点が重要になります。その為には、主張する内容について調べ尽くすことが必要不可欠です。この理解には、最も多くの時間を要しました。その分、徹底的に理解することができ、自分の主張に対する自信を持つことができました。

2つ目は、1つの国の出来事について理解するには、その周辺の国々についても知らなければならないということです。私は「ウクライナが今後安定に向かうか」というテーマについて議論しました。本問題について話し合うには、ウクライナ国内の問題だけでなく、ロシアやEU諸国、アメリカ等の国々同士の間接関係についても鑑みる必要がありました。更に、様々な国が経済、軍事、政治のどの観点において、どのような関係性を有しているのかも、理解しなければなりません。ある国の出来事は、国際社会の中の出来事であるという認識を新たにしました。

本合宿を通して、一つの出来事の背後には、どのような国々の駆け引きや思惑があるのかについて関心を持ち、自分自身で調べ、理解してゆきたいと思いました。更にその上で、国際社会の中で、日本がどのように立ち振る舞うべきなのかについても考える必要があると痛感しました。

センター及び国際課の活動

2014/7/8	フィリピン大学教育ツアー
2014/8/8	学生交流体験旅行「むすびの旅」
2014/8/22~9/21	夏季南京大学短期中国語研修
2014/9/26,27	アジア×ジェンダー:知をわかちあう Sharing Gender Issues in Asia
2014/9/22,24~27,29	夏季 TOEFL 対策講座

奈良女子大学 国際交流センター
NEWSLETTER 2014年9月発行
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL: 0742-20-3736
Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp
<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/>

センター来訪者

- 2014/7/8
Dr. Virgilio U. Manzano
(フィリピン、Professor of University of the Philippines) 他 15名
- 2014/9/26,27
Wiwik Retno Handayani 氏 (インドネシア、ガジャ・マダ大学)
- 2014/8/3
Prof. Dimitri Vanoverbeke (ベルギー、Katholieke Universiteit Leuven)
- 2014/8/3
Dr. Phil. Kolja Raube (ベルギー、Katholieke Universiteit Leuven)

編集後記：本学に留学していた幾人かの留学生達も夏に帰国し、後期より新しい留学生が来ています。学生同士を結ぶ Coffee Hour など新しい取組みも始めていますので、ぜひ今後もセンターの活動にご注目下さい。

(編集者：Yoko Sen)